

学部等名	医療保健学部 臨床検査学科
------	---------------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
臨床検査学科は、大学の理念に基づき、医療を支える臨床検査の新知識を学び、正しい診断情報を提供する臨床検査のエキスパートとなる人材の養成を目的としており、現代医療における「実学」を重視し社会に出てすぐに役立つ専門性と地域社会の健康を支える専門人材の育成を目指している。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
現代の高度化した医療現場では、単なる検査技術ではなく ICT を駆使し、膨大な検査データからの確かな医療情報を提供できる能力が求められていることから、デジタルトランスフォーメーション (DX) が進む医療現場で即戦力となる臨床検査技師の育成、また大学院との連携により、臨床現場でのリーダーとして活躍できる研究・教育能力を備えた専門家の育成も視野に入れている。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
臨床検査学科では、教育目標や育成する人材像を明確にし、学科 Web サイトやシラバス、ガイダンス等を通じて学生・教職員に周知している。教育方針は、普段の授業や実習、臨地実習を通じて日常的に共有され、学内外での理解促進に努めている。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

臨床検査学科では、教育の質を継続的に改善するため、学科アゴラを活用し、各科目間での情報を共有している。科目系統別に担当教員同士で教育目標やカリキュラムの達成状況を定期的に点検・評価している。IRによるデータ分析や学生の意見も反映しながら、教育改善に活用している。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

臨床検査学科では、毎年度の教育・研究活動に対する自己点検・評価を実施している。また授業評価も活用し、評価結果は学内関係者に共有され、IRによるデータ分析や学生・学外関係者の意見も反映し、教育改善に活用されている。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

臨床検査学科では、学生の学修成果や履修状況、授業評価等のデータを収集・分析しています。これにより、教育課程の改善や学修支援の充実を図るとともに、自己点検・評価の根拠資料として活用し、教育の質保証に資する体制を整えています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

臨床検査学科では、授業アンケートやガイダンス、臨地実習等を通じて学生・学外関係者の意見や要望を収集している。これらの意見は学科アゴラで随時取り上げIRによるデータ分析と併せて学科内の臨地実習委員会、フレゼミ担当教員に共有され、教育内容や研究活動の改善に反映されている。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

臨床検査学科では、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーを策定し、学科 Web サイトやシラバス、学生ポータル等を通じて学生・教職員に周知している。これらのポリシーは、教育課程の設計や学修成果の評価、入学者選抜の方針に反映され、教育の質保証と継続的改善に活用されている。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

臨床検査学科では、カリキュラムポリシーに基づき、基礎から応用まで体系的に学べる教育課程を編成しており、年次が進むにつれて高度な専門分野や病院実習へとステップアップし、実践的な学修を通じて、専門知識と課題解決能力を段階的に育成している。また医療保健学部他学科（看護、臨床工学など）と連携した「チーム医療」を学ぶための科目を配置し、多職種連携教育（IPE）を推進している。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

臨床検査学科では、DP で掲げる「高い倫理観」や「専門的知識・技能」を修得するため、各科目のシラバスには到達目標とそれに対応する成績評価の方法・基準（試験、レポート、実技等）が明記されており、学生への周知に関しては、単位修得や進級に必要な要件は「学生便覧」や「履修案内」に記載され、入学時や各年次のオリエンテーション、学生ポータルを通じて学生に徹底されている。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

臨床検査学科では、臨床検査に不可欠な細胞鑑別などの分野で、e-ラーニングを導入し、学生が能動的に反復学習できる環境を整備している。また学内実習では、現場と遜色のない最新機器を使用し、コンピュータを活用したデータ解析や再現性の確認など、実践的なスキル習得を促している。アクティブラーニングやPBL、ケーススタディなどを積極的に導入し、学生の主体的な学びを促進している。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

臨床検査学科では、3つのポリシーに基づき、講義・演習・実習を通じて学修成果を多面的に評価している。各科目のシラバスに明記された評価方法に従い、筆記試験の結果だけでなく、レポート、実技、e-ラーニングによる反復学習の結果、および平素の学修状況を総合して判定している。また、卒業研究では発表会を実施し複数教員による審査を行い、総合的な能力を評価している。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ
---	---

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

臨床検査学科では、教員の採用・昇格に関して、研究業績、教育能力、大学運営への貢献実績などを基準とした明確な規程を整備しており、これらの基準は学科内で共有・運用されている。昇格審査は人事委員会等の審議を経て、公正かつ厳正に実施されている。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

臨床検査学科では、大学全体の FD 方針に基づき、授業改善や教育の質向上を目的とした FD 活動を継続的に実施している。FD 委員会を中心に、各学部・学環から選出された教員が参画し、授業評価や教育課題の共有、改善策の検討を行っている。活動内容は学科内で共有され、教育改善に活用されています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

臨床検査学科では、教員の教育・研究活動に対し、授業評価アンケートや研究業績の自己点検・評価を通じて成果を把握している。これらの結果は FD 活動や人事評価に反映され、教育の質向上や研究力強化に活用されています。また、学内委員会による審査も行われ、透明性と公正性が確保されています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ
---	---

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

臨床検査学科では、臨床検査技師の資格取得だけでなく、日々進化する医療現場のニーズに応えるため、先端医療と遺伝子検査の強化に注力している。がんゲノム医療や感染症診断（PCR 等）に不可欠な遺伝子検査技術を学内の最新設備を用いて実践的に学ぶ。また大学病院や総合病院と同等の最新機器を備えた実習室で、早期から現場に近い環境での技術習得が可能である。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

臨床検査学科では、単なる「検査の実施者」に留まらず、医師の診断をサポートする医療情報の専門家としての役割を重視している。検査結果から病態を見極め、医師と対等にディスカッションして適切な追加検査を提案できる判断力を養う。多職種連携教育（IPE）の実施に関しては、看護、理学療法、臨床工学など他学科教員による講義を通じ、チーム医療における臨床検査技師の役割を実践的に理解させるよう取り組んでいる。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。